

ご挨拶

理事長 岩田 礼

第55回全国大会は、非会員62名を含む413名の参加者を得て、盛会のうちに終了した。ご尽力をいただいた筑波大学のスタッフの皆様にご心からお礼申し上げます。学生に交じって先生方が黙々と下働きをしておられる姿に感銘を受けたのは私だけではなかつたろう。

次期会長(初代“会長”)には、木村英樹氏が就任されることが決まり、次第に肩の荷が軽くなっていく思いである。過去一年半、当初の拒否反応を忘れたかのように働いてきた。それは常に職務に忠実である私の気質によるものと思っていた。ところが、脳科学に詳しい友人の診断によれば、それは“刺激依存症”なのだそうだ。単調な刺激を強い刺激に転換しようとする脳の働き。この男は現役バリバリのビジネスマンなのだが、アル中による長期入院から生還した経歴の持ち主だから、言うことには説得力がある。私の老後は悲惨であると断言してよかろう。但し、開き直って申せば、およそ刺激的でない学問・研究などありえない。故に、刺激依存症でない研究者などありえない。ただ刺激のソースが人によって異なるだけのことである。

新しい会則を含む「規則集」をお届けする。これは本会の外見上のリフォームであり、いかに会員に魅力的な商品を提供するかという具体的な“政策”は含まれていない。しかしそれにつながる表現が盛り込まれている。例えば、“研究例会”(第3条2)。今年の大会には72件もの発表申込があった。もはや飽和状態というべきである。一方、支部例会は関東と東海でしか開催されていない。全国大会のほかに、年二回程度、丸一日使うような研究会を開催してはどうか？二回のうち、少なくとも一回は首都圏以外の開催とする。無論、関東と東海の支部例会は継続していただいてよい。“研究例会”にはこのような可能性が込められている。しかしこれを具体化するには、なお準備と“やる気”が必要である。

新しい会則は、“評議員”(旧“理事”)を、そのような活動の一翼を担う各地区の代表と位置付けている。一方、そのようなやり方は非現実的、非効率だとの意見もあった。第三の委員会として、“企画委員会”のようなものを設置し、そこで研究会やセミナーの開催を具体化する方が確かに手っ取り早い。しかし本会は支部の伝統を有し、また多様な会員によって構成されている。そのような委員会が設置されたとしても、研究例会のイニシアチブは担当支部がとり、委員会との間で一定の緊張関係を保つのが健全であると信ずる。

ともあれ、これでしばらく様子をみようではありませんか。



理事(旧常任理事)選挙 結果報告

第 55 回全国大会第1日目(筑波大学 2005 年 10 月 29 日)に理事選挙が行なわれました。会則改定にともない、来年度から役職名称が変更になります。本選挙によって選出された理事長および常任理事の当選者は、それぞれ 2006-2007 年度の会長および理事として就任されます。副会長につきましては、後日、会長が理事の中から委嘱する運びとなります。

選挙の結果は以下の通りです。

投票総数 476 票(内、有効投票総数 429 票、無効票 1 票、白票 46 票)

得票数: 木村英樹会員 52 票(2006 年度-2007 年度 会長)

荒川清秀会員 48 票, 杉村博文会員 47 票, 平田昌司会員 32 票, 岩田礼会員 27 票,
相原茂会員 18 票, 佐藤晴彦会員 15 票, 遠藤光暁会員 15 票

(以上 8 名 2006 年度-2007 年度 理事当選者)

(次点) 古川裕会員 14 票

なお、選挙後に相原茂会員から新理事就任辞退の申し出があり、常任理事会ならびに選挙管理委員会で協議の結果、やむを得ない事由と認められましたので、次点の古川裕会員を繰り上げ当選者と致しました。

選挙管理委員長 小野秀樹



会議報告

■2005 年度理事会・総会報告(10 月 29 日筑波大学大学会館・講堂)

I. 報告事項

①会務報告

1. 会員動向

総会員数 1,133 名(うち顧問 5 名, 名誉会員 28 名, 通常会員 1,093 名, 海外会員 7 名); 賛助会員 21 社。(10 月 31 日現在確定数)

* 理事会及び総会では、10 月 25 日時点での数字を報告しましたが、その後、内規に基づく除籍者を確定したこと、大会時に若干の新入会員を受付けたこと、新顧問が推挙、承認されたこと等により、上記確定数を記します。

なお昨年度の大会以降(2004.11.08 以降)の変動は下記の通りです。

新入個人会員 62 名(海外会員 3 名を含む)、新入賛助会員 2 社

除籍者 42 名、ご逝去 2 名、退会者 13 名

2. 退任理事に関する報告

阿部兼也氏(関東支部)の退任を了承した。

3. 賛助会員の出店料

賛助会員については、来年度から全国大会での出店料は徴収しないこととする。この措置に伴う開催校の収入減については予算措置をとる。

4. 『中国語学』バックナンバー料金の改定

委託販売を行っている内山書店と協議の結果、以下のように取り決めた。

- ・最新号(252 号)から 249 号までは 5,000 円(税込み:以下同)とし、5 年後に価格の見直しを行う。
- ・248 号から 232 号までは 3,000 円に固定する。

- ・231号より以前ものは600円に固定する。
- ・「中国語学総目次」は1,500円とする。

②編集委員会報告

1. 投稿規程及び執筆要領の改正

- (1)「投稿規程」1.の「…、前年12月までに入会している会員に限る。」を「…、3月10日(投稿受付締切り日)時点で会員である者に限る。また、連名による執筆の場合、執筆者全員が会員でなければならない。」に改めた。
 - (2)「投稿規程」10.に「採用論文の本誌掲載にあたっては、将来これを学会がウェブ上で公開することに著者が同意したものとみなす。その際、学会は以下の二点を遵守する。①著者の氏名を付記する。②著者の了解なしに論文(サマリーを含む)の内容に変更を加えない。」を追加した。
 - (3)「執筆要領」に「日本語による執筆要領」という文言を追加した。
 - (4)「執筆要領」1.の「投稿用紙ならびに制限枚数」を「投稿用紙と制限枚数」に改めた。
 - (5)「執筆要領」3.1枚目(表紙):(1)に「その他」を追加した。(2)に「中国語訳と」を追加した。2枚目以降:(3)の「同言語」を「同一言語」に改めた。(4)の「印刷初稿段階において」を「謝辞は印刷初稿段階において」に改めた。
- 2.『中国語学』252号、2005年10月29日発行、発行部数1,500部。投稿論文28編のうち10編を採用(内、条件付き採用は6編)。他に依頼論文3編。
- 3.学会奨励賞:田中智子氏「客家語のいわゆる『操作使役』文について—北京語との対照を含めて—」
- 4.印刷所を中西印刷に変更。なお、中国語フォントは潘悟云氏(上海師範大学)より提供を受けた。

③科研費申請関係報告

『中国語学』の出版に関する科研費補助金の申請書を作成し、近日中に提出する。

④日本学術会議関係報告

10月より新期学術会議が発足し、当学会は協力学術研究団体として申請手続きを行なったこと、東洋学・アジア連絡協議会に加盟したこと、等が報告された。

⑤ウェブリソース委員会準備会関係報告

ウェブサイトの再構築、ウェブ上で学会誌掲載論文のサマリーを検索するシステムの構築など、同委員会の活動について報告があった。

⑥個人情報の取り扱いについて

当会の個人情報管理の現状が報告され、学会が有している個人情報にどのようなものがあるか確認した。また来年度の名簿作成について理事長から提案があった。

II. 審議事項

1. ウェブリソース委員会承認

これまで準備会として活動を行ってきたウェブリソース委員会を正式な委員会として承認した。

2. 決算案・予算案

土田幹事より下記資料に基づいて報告、提案があった。

①2004年度会計決算(資料1参照)

中川裕三監査委員から監査報告があり、承認された。

②2005年度補正予算(資料2参照)

ウェブサイトの再構築に約60万円を要するため、財源として積立金50万円を“ホームページ関連経費”に組み入れることなどが報告され、承認された。

③2006年度予算案(資料3参照)

来年度は名簿作成のための財源として積立金50万円を通常予算に組み入れること、賛助会員の出店料免除に伴い、大会開催校に対する補助金を20万円増額することなどが報告され、承認された。

3. 会則改定

常任理事会より提出された会則改定案につき、理事会で審議した結果、第7条の4「評議員30名」を「評議員約30名」と修正した上で、採決を行い、賛成34、反対0、保留1で可決した。総会ではこの理事会案を諮り、採決の結果、賛成73、反対0、保留0で可決した。なお、会則の字句の微細な修正については、事務局に一任する。

4. 次期大会開催校

愛知県立大学で2006年10月28日、29日を予定。

5. 顧問・名誉会員推挙

顧問に興水優氏が推挙され了承された。名誉会員の推挙はなかった。



学術会議に関するインフォメーションと本会の対応

本年10月1日に新期(第20期)学術会議が発足しました。これにより、学術会議の体制と運営方法が大幅に変わることになりました。

- 1) 学術会議が連携する対象は、一定の基準にもとづき特定された学会及び学会の連合体であり、前者は「日本学術会議協力学術団体」となる。本会はずでに申請書を提出した。後者については、昨年度の大会決定に基づき、東洋学・アジア連絡協議会に加盟した。
- 2) 学術会議の会員210名及び連携会員約2,000名は、会員と連携会員による推薦によって決定される。協力学術団体は情報提供を求められることがある。会員210名は決定済み。連携会員については、10月末までに半数が決まり、残る半数についても4月までに任命される。なお本会は、昨年末に会員8名を選び、情報提供を行なっている。
- 3) 常置委員会として、機能別委員会と分野別委員会が設置される。後者は30委員会よりなり、「語学・文学委員会」もその一つとなる見通しである。今後、語学文学関係で連合の話があれば積極的に応ずる。

参照：「日本学術会議の新しい在り方に関する懇談会(最終報告)」

<http://www.scj.go.jp/ja/scj/kondan/index.html>



●会費未納による除籍者●(「会費納入に関する内規」による)

42名 氏名略

(資料1)

日本中国語学会 2004 年度会計決算書(2004 年 4 月 ~ 2005 年 3 月)

2005 年 10 月 29 日総会承認

< 収入 >

	予 算	決 算
前年度繰越金	8,378,724	8,378,724
通常会員会費収入	5,400,000	6,240,000
賛助会員会費収入	500,000	570,000
『中国語学』売上金	480,375	480,375
印税	40,000	24,000
通常貯金利子 (04/4~05/3)		118
計	14,799,099	15,693,217

< 支出 >

	予 算	決 算
会誌印刷費	2,300,000	2,199,015
名簿印刷費	550,000	598,500
大会助成費	750,000	750,000
支部活動助成費	500,000	370,417
通信費	650,000	512,370
事務費	850,000	1,011,403
事務局費	600,000	600,000
編集局費	120,000	120,000
旅費交通費	800,000	823,400
会議費等雑費	120,000	57,317
学会奨励費	100,000	100,000
ホームページ関係経費	300,000	65,000
積立金	4,000,000	4,000,000
次年度繰越金	3,159,099	4,485,795
計	14,799,099	15,693,217

監査の結果、経理内容は適正であり、会計諸表は的確に処理されていることを認めます。

2005 年 5 月 6 日

2004 年度会計監査 中川 裕三

2004 年度会計監査 竹越 孝

(資料2)

日本中国語学会 2005 年度会計補正予算(2005 年 4 月 ~ 2006 年 3 月)

2005 年 10 月 29 日総会承認

<収入>		<支出>	
前年度繰越金	4,485,795	会誌印刷費	2,350,000
(通常貯金利子約 100 円を含む)		大会助成費	750,000
積立からの繰入金	4,000,000	支部活動助成費	500,000
通常会員会費収入	6,000,000	通信費	700,000
賛助会員会費収入	500,000	事務費	1,000,000
『中国語学』売上金	482,109	事務局費	650,000
印税	24,500	編集局費	120,000
計	15,492,404	旅費交通費	900,000
		会議費等雑費	120,000
		学会奨励賞	100,000
		ホームページ関連経費	900,000
		選挙関連費	100,000
		積立金	3,500,000
		[内訳]	
		記念大会積立金(50 万)	
		事務委託関係積立金(150 万)	
		ウェブサイト構築積立金(50 万)	
		国際会議開催支援積立金(50 万)	
		名簿作成費積立金(50 万)	
		予備費	3,802,404
		計	15,492,404

(資料3)

日本中国語学会 2006 年度会計予算(2006 年 4 月～2007 年 3 月)

2005 年 10 月 29 日総会承認

< 収入 >		< 支出 >	
前年度繰越金	3,802,404	会誌印刷費	3,000,000
積立からの繰入金	3,500,000	名簿印刷費	600,000
通常会員会費収入	5,900,000	大会助成費	950,000
賛助会員会費収入	500,000	支部活動助成費	500,000
『中国語学』売上金	450,000	通信費	650,000
計	14,152,404	事務費	950,000
		事務局費	650,000
		編集局費	120,000
		ホームページ関連経費	300,000
		旅費交通費	900,000
		会議費等雑費	120,000
		学会奨励賞	100,000
		積立金	3,000,000
		[内訳]	
		記念大会積立金(50 万)	
		事務委託関係積立金(150 万)	
		ウェブサイト構築積立金(50 万)	
		国際会議開催支援積立金(50 万)	
		予備費	2,312,404
		計	14,152,404

事務局からのお知らせ

『中国語学』題字の原本について

このたび、平山久雄会員のお骨折りにより『中国語学』題字の作者が判明いたしました。編集委員一同、会員の皆様に貴重な情報を提供できたことを心から喜んでいるところですが、現在、題字のオリジナルが所在不明となっております。もしこの件に関する情報をおもちの会員がおられましたら、ぜひ編集委員会までお知らせ願いたく存じます。

(編集委員長)

●予稿集の販売●

『日本中国語学会第 55 回全国大会予稿集』(1,575 円)は少部数在庫があります。入手ご希望の方は下記の書店までご連絡ください。品切れの際はご容赦ください。

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 540 林ビル 3F 好文出版
Tel. 03-5273-2739 Fax. 03-5273-2740 <http://www.kohbun.co.jp>

(第 55 回全国大会準備会)

名誉会員の推挙

名誉会員のご推挙は、下記学会事務局宛にお願いします。

〒920-0918 金沢市尾山町 5-11 日本中国語学会事務局
TEL/FAX: 076(264)9232 E-mail clsj@mail.goo.ne.jp

●第56回大会開催のお知らせ●

2006年10月28日(土)・29日(日)の両日、愛知県立大学にて開催いたします。リニモ(東部丘陵線)が開通し、名古屋市内からのアクセスが便利になっています。どうぞ奮ってご参加下さい。詳しいご案内は、2006年5月中旬頃にお送りする予定です。

研究発表応募規定

1. 研究発表の申し込みは本学会会員に限る(応募時に会員であり、予稿集原稿の寄稿時までに当該年度までの会費を納付していること)。ひとりの会員が、複数の発表の筆頭発表者となって申し込みをすることはできない。
2. 他学会で正式に発表したもの及び応募中のものを二重に申し込むことはできない。
3. 使用言語は、日本語・中国語を原則とする。
4. 発表希望者は、発表要旨を大会準備委員会あてに郵送もしくは宅配便により送付する。持参されたものは受理しない。申し込み締め切りは6月30日(国内郵便局消印・宅配受領印有効)とする。
5. 発表要旨は、以下の要領にしたがって、(A)発表申込者原簿を1部、(B)審査用要旨を3部提出する。

(A)発表申込者原簿(A4判用紙1枚、1部提出)。
発表題目・氏名・住所・所属機関・職または身分(教授、院生、非常勤講師等)・連絡先(電話・e-mail・ファックス)・発表希望部会(文法語彙・文字音韻方言・教育法開発)、ある場合は、研究発表歴(最近3年間の主要な口頭発表、論文題目(投稿中も含む)・掲載誌)を記す。

(B)審査用要旨(A4判用紙1枚、3部提出)。
発表題目、要旨本文(題目の字数を含めず、日本語・中国語で1200字以内、40字×30行)のみを10.5ポイント以上のフォントで印刷する。図表がある場合も、上記の分量内に収めるものとする。審査用要旨に氏名や所属は書かない。また、要旨本文中に、執筆者名が特定できるような表現を用いること及び特定の個人への謝辞を記すことは、避ける。
6. 理事会と協議の上で、大会準備委員会が採否を決定する。結果は7月31日までに郵送で通知し、学会ホームページ上に採択された発表者の氏名・発表題目を公表する。
7. 研究発表が採択された場合は、大会準備委員会の指定する期日(国内郵便局消印・宅配受領印有効)までに、大会準備委員会あて、予稿集原稿プリント(A4判5ページ以内厳守。別に詳しい規定を定める)を郵送もしくは宅配便で提出する。大会準備委員会は必要に応じて電子テキストの提出を求めることがある。
8. 発表日時については、大会準備委員会が決定する。
9. 予稿集掲載論文は正規の研究論文とは見なされないため、引用・言及にあたっては事前に発表者の了解を得るなど、相互に細心の注意を払うこととする。発表者自身が転載することに関しては、本学会大会発表論文であることを明記する限りにおいて、これを妨げない。

(愛知県立大学・第56回全国大会準備委員会)

2005 年度会費 (6,000 円) 納入のお願い

会費未納の方には、振込用紙を同封しております。本年度会費(6,000 円)を最寄りの郵便局からお振込下さい。事務運営上、2005 年 12 月 20 日までにご入金くださるよう御協力をお願い致します。

郵便振替 加入者名:日本中国語学会 口座番号:00120-2-536256

ネット会員制度登録へのお願い

1. 2005 年度からネット会員制度を設けています。ネット会員の申込受付は 1 月 1 日～3 月 20 日の期間となっております。会員のみなさまの同制度への登録をお待ちしております。
2. ネット会員は、会費 1,000 円の割引を受けることができます。年度の会費請求の際、請求額が 5,000 円になります。
3. ネット会員には、ニューズレター及び研究例会(支部例会)通知が郵送されませんので、ホームページによって必要な情報をチェックしていただくようお願いいたします。
4. ネット会員を希望する会員は、学会ホームページから申込書をダウンロードし、必要事項記入の上、学会事務局に郵便またはファックスで送付して下さい。電子メールでの申し込みは受け付けません。

学会事務局

〒920-0918 金沢市尾山町 5-11

E-mail clsj@mail.goo.ne.jp

URL <http://wwwsoc.nii.ac.jp/clsj/index.html>

TEL/FAX: 076(264)9232

急ぎの御用は、076(264)5876(岩田)または 0766(25)9209(山田)まで